

# 妻ヶ丘中学校だより

令和6年2月27日 校長 深江 祐史

## 「立志の集い」が行われました

2月15日(木)午後からMJホールで、令和5年度第2学年「立志の集い」が行われました。当日の校長挨拶の抜粋を掲載します。

本日は、多くの保護者の皆様の見守る中、この素晴らしい会場で、令和5年度 都城市立妻ヶ丘中学校「立志の集い」が開催されますことを大変嬉しく思います。さて、本日、ここに立志を迎えられた203名の中学2年生の皆さん、おめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

先日、立志の集いのファイルを実行委員の生徒が校長室に届けに来てくれました。ありがとうございました。皆さんが選んだ漢字一文字、そしてなぜその文字にしたのか、全員の文を読ませて頂きました。この中には、同じ文字を選んだ人もいましたが、選んだ理由についても全く同じという人はいませんでした。それはそうですよね、今、ここには203名の2年生がいますが、同じ人間は誰一人いないのですから。皆さんは、一人一人違う人格をもった人間です。

大切なことは「自分で考えた」ということでしょう。人によっては、一文字がすぐに浮かんで、さらさらっと簡単に書けたかもしれません。人によっては、かなり時間がかかってしまったかもしれません。でも、その時にきっと、「ああ、自分の中には、こんな思いがあるんだ」と普段あまり意識しない「自分の中にある思いや考え」に気付くことが出来たのではないのでしょうか。

この後、一人一人ステージ上で発表があるようですが、どうぞ、堂々と自信を持って、あなたの思いを発表してください。とても楽しみにしています。

さて、先日、県立高校の推薦入試が行われました。面接では予想もしなかったことを聞かれ、とまどった受験生もいたようです。きっと、その高校は、その生徒が、「短い時間の中で、自分の頭で考え、それを的確に相手に伝えることができるか」その力を見たかったのではないかと私は思っています。

「自立」「感謝」「貢献」いつも皆さんにお願いしている3つのことですが、まずは、「自分の頭」で考えることがスタートです。どうぞこの「立志の集い」を機にもういちど、自分のことを振り返ってください。「自分はどうなりたいと思っているのか?」「何がしたいと思っているのか?」その時に「自分の良さ」に、ぜひ気づいてほしいと思います。そして、それを信じることです。自分の頭で考え、自分の意志で行動し、自分の手で幸せをつかみ取る大人に成長して行ってほしいと願っています。

本日は、このあと、旭有機材株式会社人事部の伊東洋之氏の講演も予定されています。これから社会では、どのような人間が求められているのか、興味深いお話がきけるのではないかと思います。みなさん、しっかり聞いて、ぜひこれからは活かしてください。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日はお忙しい中、ご臨席いただき、誠にありがとうございます。2年生とは、二学期と一緒に修学旅行に行かせて頂きました。とても明るく元気な、優しいそして頼もしい学年だと思います。あと1ヶ月半で3年生になりますが、校長としては、今から来年が楽しみです。きっと今まで以上に、妻ヶ丘中学校の伝統を守ると同時に、新しい風を吹き込んでくれるものと確信しております。

それでは、本日の「立志の集い」を機に、各ご家庭でこれから先のことについて「大人どうし」の話が盛り上がることを期待して、私の挨拶とさせていただきます。

このあと、生徒は一人ずつステージ上で自分の「一文字」を紹介しました。アクション付きの力強い決意表明や落ち着いた口調で、それでいて芯の強さを感じるものなど、それぞれの生徒の個性あふれる見事な発表でした。

その後は、「伊東洋之」（いとう ひろゆき）氏による記念講演。伊東氏の講演テーマは「一緒に考えよう、私の未来」。今、この国はどういう状況にあるのか、これからはどんな力が必要になってくるのか、立志の集いにピッタリのテーマで、考えさせられるものでした。



## 本校の大先輩から本の寄贈がありました

先日、本校卒業生で、現在東京在住の堀内様（90歳）から学校にお電話をいただきました。以下にその内容を簡単にご紹介します。

90歳になるにあたって、自分の人生は幸せだったなあと感じている。中でも中学時代が最高だった。中1は旧制の東中学校だったが、中2、3年は新制の妻ヶ丘中学校で学校生活を送った。当時の先生には、とてもお世話になった。先生には「やれば何でも出来る」ことを教えてもらった。

今の自分があるのは、妻ヶ丘中のおかげだと思っている。ついては、学校に本を寄贈したい。

40歳の頃、新聞に「昇進試験に合格したければ、1年で100冊本を読め」との記事を見つけ、5年間、年間100冊の本を読んだ。それから読書は、今の私を支える大切なものとなった。

当時の妻ヶ丘中には何もなかった。体育に関する備品は、テニスラケット4本、ネット1張り、バレーボール5個、グローブ4個だけだった。

また、自分たちは「自然愛好会」という部をつくり、さまざまな理科の実験や観察等を行った。金環日食を観察する際は、磨りガラスにすずをつけて観察した。太陽の欠け具合を20枚ぐらいのチャートにして、県の発表会に出したところ表彰された。妻ヶ丘中は、優秀賞の常連校だった。

とにかく素敵な思い出ばかりで、妻ヶ丘中学校は、「世界一素敵な学校」だと思っている。

近いうちに本が届くと思うが、こどもたちにぜひ本に読むことの大切さを伝えてほしい。

## 本校の生徒や団体が表彰を受けました

市や地区で以下の表彰があり、本校の生徒や団体が受賞しています。おめでとうございます！

令和5年度都城市精励賞

【善行部門（個人）】3年 渡瀬 由那

【文化部門（団体）】吹奏楽部 ものづくり研究会

妻ヶ丘地区まちづくり協議会

【青少年意見発表】2年 塩見 木乃花

【善行児童生徒】3年 大橋 ころろ